



田子にんにくの歴史と変遷

～田子にんにくは

どのようにして作られてきたのか～

田子にんにく創世期～成長期



当時の青年部 部長

(故) 西村 金二 氏



初代 にんにく生産部会
部会長 中村 萬 氏

◎昭和37年 農協青年部の有志ら(十数名)で
福地ホワイト6片種を福地から導入

(田子町は、戦後から1950年代までは、林業や馬産でのい
であり、苛酷な土地柄であった。

もちろん、米もろくにとれないため、ヒエやアワなどの雑穀や炭
焼きなど生計をたてていた。

しかし、1960年代に入ると石油の次代に入り、木炭需要が
激減。

りんごを作るか、出稼ぎに出るしかなくなった。

ところが、当時県青協に入っていた、野ノ上武次氏(故人)
が情報を得て、にんにくの導入に至った。

西村氏弁「わしらもやってみようということになって、
12、3人で親を説得して10万円集めて
1万個の種を買った。今、思うと冒険だね。」

◎昭和40年 田子にんにく初出荷(13kg)

◎昭和45年 農協にんにく生産部会設立(67戸)

中村氏弁「作れば売れるという時代で、反収80、90万
はザラにあった。

20代で家を建てたものも多かった」

田子にんにくをつくった立役者



昔から田子町は畜産が盛んで、良質な堆肥の生産がなされていた。

田子にんにく成長期～バブル期



当時農協内での規格
を中心的にまとめた
川村 武司 氏



現にんにく生産部会長
田沼 誠一 氏

◎昭和45年 作付け農家急増による価格急落



やめてしまう農家が急増



産地として生き抜いていくため、選果の
規格を厳しく方針を固めた。
(今までは3L、2L、L、M、S、2S)

規格の統一



農家からの
反発

2L、L、M、Sと簡略化した。

結果的に市場からの強い信頼を獲得し、

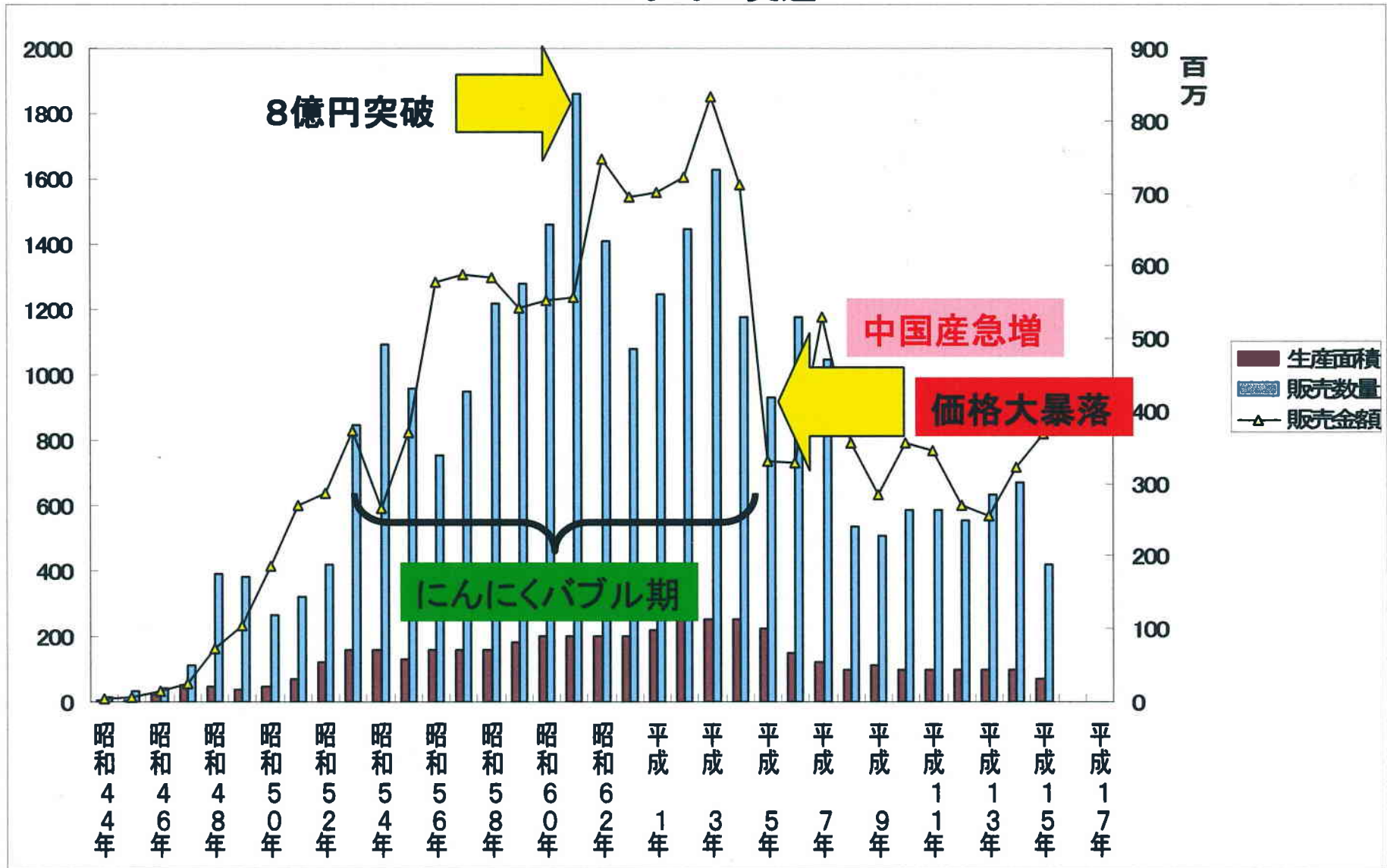
67戸だった部会員も722戸へ

3haだった面積が300haへ

300万円だった売上が8億円へ

にんにくバブル期への足がかりとなった。

JA田子町の変遷



田子にんにくバブル期～低迷期

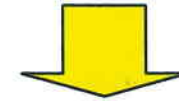


中国産にんにく作業風景

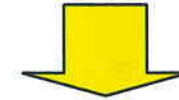


中国産にんにく出荷物

◎平成5年 中国産急増による価格急落



面積が半減→葉たばこ
作付けへ大量移行



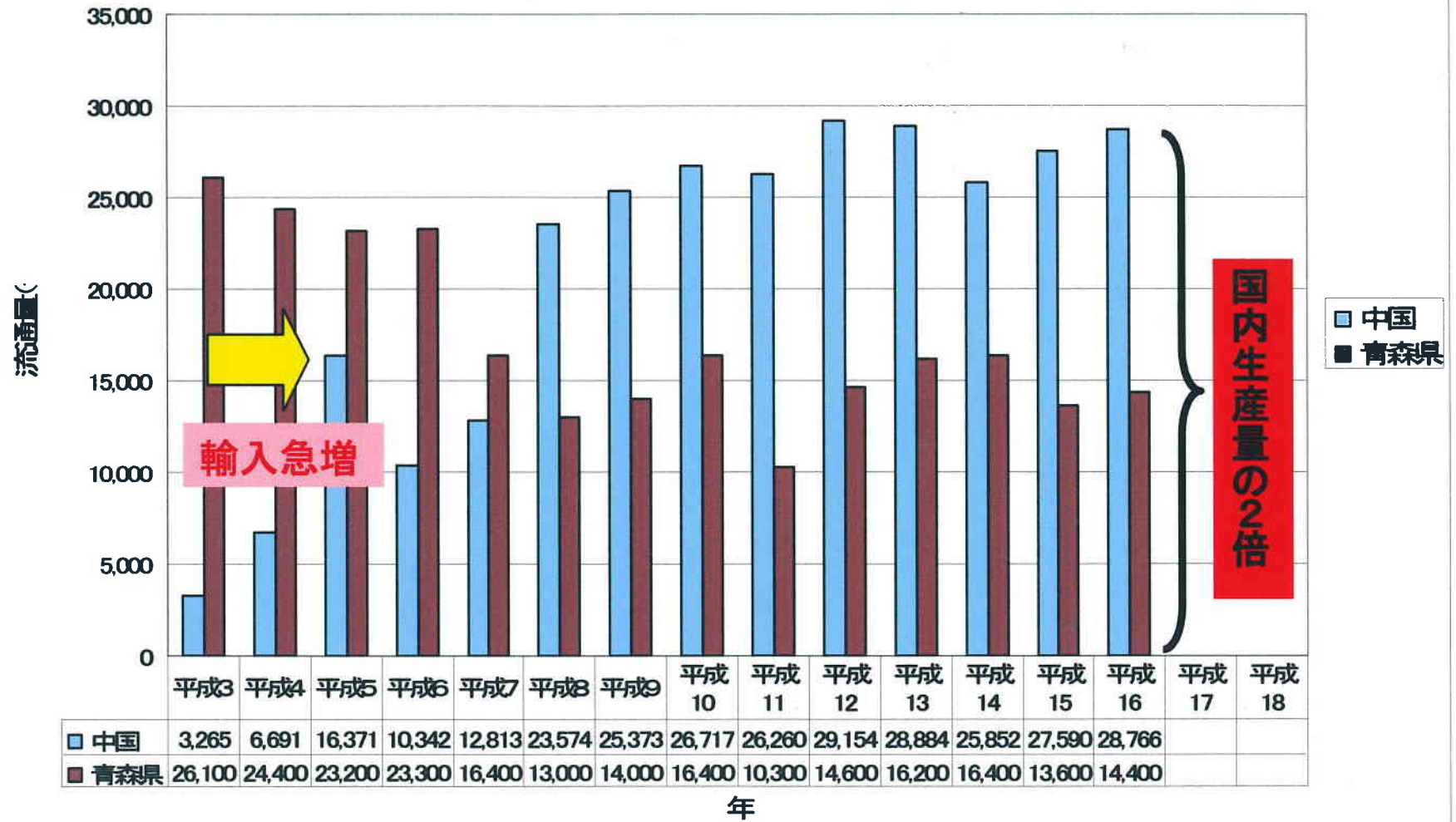
中国産にできない大玉品種を
導入することに。



耐病性が強く、肥大できる品種
を獲得

中国産との差別化

中国産と青森県産比較(国内流通量)



農薬に頼らない病害虫駆除



にんにく専用高温処理施設

イモグサレセンチュウ対策のための処理

平成14年3月完成

●規模

- ・鉄筋1階建て
- ・規格:建物面積110m²
- ・処理能力:11t/日

●処理方法

- ・感熱方式:ヒートパイプ方式
- ・温度設定:50℃~55℃
- ・処理時間:1サイクル9時間

※処理前は農家で予備乾燥を行う。

●工事概要

- ・平成13年度農業生産総合対策事業(農林水産省)
- ・総事業費:32,802千円

高品質・安定出荷に向けて



田子町にんにく専用CA冷蔵庫

輸入にんにくに対抗するために、高品質のにんにくを周年し、安定生産をはかる事を目的とする。

平成14年12月完成

●規模

- ・鉄骨一部2階建て
- ・規格:建物面積935m²
高さ荷捌き場8m、
ラック棟26.15m

- ・收容能力:350t

●冷蔵方式

- ・自動ラック式CA冷蔵庫
- ・調整温度: -2°C ~ -3°C
- ・酸素2% ~ 3%、
- ・湿度65% ~ 70%

●工事概要

- ・平成14年度輸入急増農産物対応特別対策事業(農林水産省)
- ・総事業費:339,729千円

平成7年度以降の事業導入内容

| | | | | | |
|-----|--------------------|------------|-----|----------------------|-------------|
| H7 | にんにく皮むき機一式 | 11,552,480 | H12 | 小規模都市基盤整備(5.64ha) | 2,703,000 |
| | にんにく調整用施設 | 43,569,000 | | にんにく種子選別機、玉割機(10セット) | 2,650,000 |
| | 土づくり事業(深耕+土壌改良) | 13,745,000 | | 優良種苗(6,000片) | 945,000 |
| | 深耕ロータリー | 2,266,000 | | 新規作付け拡大奨励金 | 4,700,000 |
| H8 | 土づくり事業 | 1,503,000 | H13 | MGS原種配布(25,500片) | 4,016,000 |
| | 優良種苗展示圃設置 | 375,000 | | 小規模土地基盤整備(5.64ha) | 4,016,000 |
| H9 | 土づくり事業 | 10,655,000 | | 高温処理施設(1棟) | 31,240,000 |
| | 網室(10棟) | 4,725,000 | | 優良種苗導入(60,000片) | |
| | 増殖種子導入(8,000片) | 1,575,000 | | 規模拡大奨励(10ha) | |
| H10 | 増殖種子導入(45,000片) | 6,750,000 | H14 | CA冷蔵庫(1棟) | 344,820,000 |
| | 啓蒙普及用種子購入(45,000片) | 8,250,000 | | 大玉安定供給 | |
| H11 | 皮むき機 | 5,250,000 | H15 | 転作田新規作付け(7.5ha) | 2,651,000 |
| | 啓蒙普及用種子購入(39,000片) | 5,250,000 | | 増反奨励(10.3ha) | 1,554,000 |



現在は、県内一の平均単価での取引がなされ、需要に対して供給が足りない状況となっている。

にんにくをキーワードに広がる国際交流の輪



アメリカ ギルロイ市

◎平成元年 アメリカ ギルロイ市と姉妹都市締結
(にんにく世界一の都市)

◎平成2年 イタリア モンティチェッリ町姉妹都市締結
" 韓国 瑞山市と友好交流開始

現在も、ギルロイ市・瑞山市とは毎年交流を図っている
特に、ギルロイ市からは交流員が1年間の常駐を行っている。



イタリア モンティチェッリ町



韓国 瑞山市

にんにくにこだわったイベント



昨年第20回を迎えた「にんにくとべこまつり」 10月第1土日開催



昨年第6回目を迎えた「関地区 にんにくまつり」 7月上旬開催

国際交流拠点



ガーリックセンター
GARLIC CENTER

(財)にんにく国際交流協会が窓口となり、国際交流事業やにんにく関連商品等の販売などガーリックセンターの運営を行っている。

町の情報発信基地



(財)にんにくネットワークが運営する独自チャンネル3局及びその他放送、また、町立図書館の併設

にんにくのモニュメント



ポスト



橋のらんかん



街頭